

4. ゲアン省旧式家屋の記録調査総括報告

グエン・マイン・トゥー

1. 共通問題

3段階調査プログラムの内容

第1段階：

- + 調査量；主要8地域の家屋379戸
- + 実施期間；1999年7月16日から1999年7月23日
- + 組織；8グループに分割（それぞれ責任者1名と学生10名からなり、1県以上を調査する責任を負う）

第2段階：

- + 調査量；35戸（山岳各県5戸、主要8地域30戸）
- + 実施期間；1999年10月22日から1999年10月26日
平野部8県30戸の測量とインタビュー
1999年12月18日から1999年12月21日
クイホップ山岳県の3戸を追加調査測量
- + 人事組織；7グループに分割（それぞれ責任者1名と学生2～4名で構成）、参加者総数（責任者と幹部合わせて）22名

2. 第1次調査結果

調査票合計379枚（参考付録1枚）に基づき、次のような結論に達した。

2. 1. 建設年代

次の表のようにまとめられる

	1800年以前	1800～1900年	1900～1945年	不確定
家屋数	9	78	248	44
比率%	2.4%	20.5%	65.4%	11.6%

- + ゲアン省で200年以上の年代の家屋は非常に少なく、痛みが激しい
- + 1800～1900年の家屋は年代を確定する文書がない
- + 1900～1945年の家屋（大多数の65.4%を占める）の年代確定の方が（1800～1900年の家屋の年代確定より）明確

2. 2. 分布

対象家屋の分布表

	北部	南部	東部	西部	東北部	東南部	西南部	西北部
家屋数	9	99	43	20	20	109	43	18
比率%	2.3%	26%	11%	5.2%	5.2%	28.7%	11%	4.7%

- + 対象家屋は全ての地方に位置している。これはゲアン地区の民間家屋の特徴である。しかしながら、その多くは南部と東南部に集中している。
- + 注意：一部の家屋は移動があったために、初期原本と比べると地域に変更がある。

2. 3. 家屋の状態

調査時での住宅の状態の分布表

	良	普通	不良
家屋数	134	200	45
比率%	35%	53%	11%

総体的に、残っている古い家屋の状態は普通もしくは良い状態と言えるが、その殆どが徐々に破壊されつつあるか老朽化の過程にある。その理由は；

- + 戦争や自然的な理由の他、人口の増加が伝統的学園都市生活に変化を与えている。伝統的家屋が、コンクリートや近代的材料を使った家屋に変わっている。
- + また住民や地方自治体に歴史遺産保護の意識がなかったり、或いは経済的理由により農村住民が自分たちの家の維持や保存ができない。

2. 4. 調査家屋の価値

家屋の価値による分類

	第1類	第2類	第3類	第4類	第5類
家屋数	29	109	80	45	2
比率%	7.6%	28.7%	21%	11.8%	0.5%

総体的に、価値のある家屋（第1類と第2類）が調査家屋の総数の36.3%を占めている。

3. 第2次調査結果

3. 1. 学園

考察を行なった学園の分布表

	大規模	中規模	小規模
家屋数	6	22	11
比率%	15.3%	56.4%	28.2%

- + 調査家屋の中で副家屋を有する場合のそれぞれの比率；離れ（61%）、台所（77%）、倉庫（25.6%）、トイレ（61.5%）、浴室（43.6%）、井戸（71.7%）、池（23%）、干し場（82%）、庭（87.1%）、門（30.7%）、屋外祭壇（7.7%）
- + 古い家屋の公園も大きく変化している

3. 2. 対象家屋の規模

間の数で体现される対象家屋の規模

	2間	3間	4間	5間	6間
家屋数	1	15	5	15	3
比率%	2.5%	38.5%	12.8%	38.5%	7.7%

北部デルタ地区の民間家屋と相違する（通常、奇数間で構成される）。ゲアン地区の民間家屋は偶数間に分けられている（2、4、6間）ところが多く、かなりの割合を占める（23%）。これらの家屋は、基本的に奇数配分されているが、付属する部屋が追加されている。平面配列は対称的ではないが、全て完全に屋根の下に配置されている。

3. 3. 母屋の間の寸法 (mm)

中央の間の幅	左側の間の幅	右側の間の幅	軒の幅
1989～2950	1620～2800	1660～2760	800～2850

+ 空間構成：中央の間は通常、神棚や接客用のテーブルやベッドを置く最も大きな空間である。両端2つの間は寝室や納屋、台所として使われている。しかし、仕切られて他の生活空間と完全に分離した祭壇として使われることもある。或いは家全体が祭祀を行なうために使われる場合もある。

+ 各間の寸法は民家の普通のサイズである。これは伝統的空間構成の需要と同時に、資材面や昔ながらの建設技術の限界を示している。しかし、間の寸法が2.7mから2.8m或いは2.9mにまでなる変形もいくつかある。

+ 軒の寸法が家の幅より広いケースもいくつかある。（おそらくこの厳しい気候条件により）庇にするため、もしくは第2柱と軒柱の間の幅を広げるため、母屋と平行する小さな屋根を別に作る。これも北部デルタの伝統的民家建築の変形の1つである。

3. 4. 母屋の柱数

	2本	3本	4本	5本	6本
家屋数	4	1	16	15	3
比率%	10.2%	2.5%	41%	30.5%	7.7%

+ 2本からなる家は山間部の高床式家屋

+ 3本以上からなる家は丘陵地や平野部にある家

+ 柱の数はそれぞれの家によって大きく異なり、ある所では6本の柱を持つ家がある。柱の構造、中央の柱と第2の柱との間隔はいくつか変形があり、完全に伝統的な寸法通りなわけではない。

3. 5. 母屋の構造の特徴

母屋の構成要素は木材から作られている。木材から作られる構造の種類は大変多い（報告書参照）。

+ 家の基本構造は北部デルタの伝統的な構造に基づく（てこ型の梁と柱）。しかしながらこの構造は南部建築の混合として変化した。

+ 最もポピュラーなのは4本柱構造である（25.6%を占める）。柱や梁、短い垂木部分は口という字のような形の断面になっており、そこは加工して平らに滑らかにされてい

るため細かな装飾は多くない。

+ 4本柱の家の変形として、てこ式の威厳ある4本柱の家、短い垂木を繋げた4本柱の家。この種の家は屋根構造の形や断面が違う。

+ 土台型の家：（板を階上にとりつけ、そこに物を収納する）4本柱の家と同様、細かい垂木を使っているため丁字型家の構造はとても単純で、細かな装飾はない（削る）。上記の2種類の家は北部デルタの民間建築にはない。

+ 反対に家の中央に柱を通さない家の造りは、この地方ではあまり見かけない。

3. 6. 主要構造における建築資材の特徴

+ 家を作る資材は北部デルタの伝統的な民家のそれと同じである。

+ 柱に使われる材料：木材。木材の質は家主の経済状態による。良質の木材を使用する傾向に終わった。主な木材は鉄木、ジャックフルーツ、ナシ、桑、マンゴーなどの木。結合に使われる木材は主に木材；鉄木、ナシ、檜の木などである。

+ 壁に使われる材料：普通は木板である。煉瓦、自然岩、土を使っている家もある。さらに全ての壁が磁器や石灰性の貝や牡蠣の殻でできている家もある。

+ 屋根に使われる材料：以前は藁だったが、現在は瓦に変わった家もある。（表参照）

屋根の分布表

	藁	瓦	陰陽	西洋
家屋数	4	13	21	1
比率%	10.2%	33%	53.8%	2.5%

屋根の形態は主に二面の屋根と四面の屋根がある。

+ 二面の屋根は調査した総戸数のうちの56.4%を占める

+ 四面の屋根は調査した総戸数のうちの43.6%を占める

+ 床：貧しい家は通常土間、豊かな家は家に対して45度か90度に200×200mmの正方形のタイルをはめる。

3. 7. 家の美術・建築の特徴

家屋の装飾程度についての分布表

	丁寧・精巧	単純・普通	粗雑
家屋数	11	21	2
比率%	28.2%	56.4%	5.1%

+ 垂木の一部は、花や葉の形、古いデザイン模様によって精巧に彫刻が施されている。屋根の縁も装飾が丁寧に施される場所である。一部の家は彫刻されていないが、垂木の組み立て方は精巧で非常に上手である。

しかしながら組み立てる技術的精巧さは北部デルタの家のレベルに劣り、単純である。（北部にはたくさんの伝統的

な彫刻を施す専門の村がある)

4. 結論

これは、沿岸地方の独特な特徴を持つ文化遺産であり、維持・保存は緊急を要する問題である。

5. 提案

- ①一般住民に伝統遺産を保護する意識を高める教育を施す必要がある。遺産保護は、まさに彼らの手にかかっている。そのため、伝統遺産は人々の生活に密着し、意識されることによってはじめて存在し続けることができる。
- ②国は、地方の伝統的な建築遺産を維持・補修する人を援助する必要がある。
- ③農村で新しい建築物を建てる時は、それぞれの地域の特色を保ち、調和のとれた伝統と民族性を守るようにする。